

DOCUMENT EYE

157

WHY

昨年の歩行中の交通事故死者は6割以上が高齢者

2002年の交通事故死者数は、過去最悪だった70年の1万6765人から半分以下の8326人(前年比42.1人減)であった。年齢層別にみると65歳以上の高齢者が3144人と圧倒的に多く、全体の37.8%を占めている。特に歩行中の死者数が大変目立つ。2002年の歩行中の交通事故死者数2384人のうち、1500人と実に62.9%を占めて



親子連れが赤信号で止まっている脇を歩いていく高齢者



真っ暗になると白っぽい服装が目立つことがわかる

いる(警察庁交通局資料より)。平日の夕方、東京都内の信号機のある横断歩道で、65歳以上とみえる高齢者の横断状況を観察した。あわせて薄暮時の服装についても調べた。

観察場所 / 東京都江東区亀戸6丁目25-1付近 明治通り「亀戸駅前南交差点」
観察日 / 2月12日(水曜日)
天候 / 曇
観察時間 / 16:35 ~ 17:35
観察者 / 4名

信号のある交差点における高齢歩行者の横断歩道の渡り方を観察する

赤信号で横断歩道を渡った高齢歩行者 111人中32人

WATCHING

親子で信号待ちの脇をスタスタと横断する高齢者も

観察場所は東京の総武線・亀戸駅南側の明治通りにある信号機のある横断歩道。観察時間帯は気温が5度台と非常に寒く、コートを着用している人が目立っていた。また、多くのクルマは5時にはスモールランプ(薄暮灯)を点灯させており、観察終了の5時35分には辺りは真っ暗になっていた。

観察の結果、横断歩道を利用した65歳以上とみられる高齢歩行者は男性72人・女性39人の計111人だった。別表のように青信号で横断歩道を渡ったのは111人中75人、一方、赤信号で横断した人も32人観察された。

赤信号で横断した人の中には、赤信号で一瞬立ち止まり、クルマがないこと

高齢歩行者の横断歩道の渡り方(111人中)

左右確認	青(75人)		青点滅(4人)		赤(32人)	
	あり	なし	あり	なし	あり	なし
男性(72人)	13	32	1	3	10	13
女性(39人)	10	20	0	0	4	5
計	23	52	1	3	14	18

65歳以上とみられる高齢者の区分は観察者の見解
1時間のうちに観察できたものについて記載



白いマスクも意外と目立つ

がわかると横断を始める男性が多かった。中には、親子連れが赤信号で止まっている脇を、スタスタと横断していった男性の高齢者もいた。女性では、誰かが渡ると、続いて渡るという例を多く見かけた。また、男女ともに左右確認をしない人が目立った。

服装だが、コート着用などでどうしても黒系統が多くなり、薄暮時はドライバーから存在が見えにくいように思われた。白杖を利用する女性と歩いていった70代とみられる男性は、白い帽子と白いジャンパーを着用。女性が持つ白杖とともに暗がりでは目立つ存在であった。高齢歩行者111人中、このように視認性の高い白や黄色の服装だったのは21人とわずかった。

また、観察で気になったのは、ほとんどの高齢者が単独で行動しており、横断している時もつむきがちな人が多かったことだ。視野が狭められ、周囲の状況などの情報量が低下しがちなように思われた。

PROPOSE

反射材や視認性の高い服装で見られるための工夫を

65歳以上の高齢者で歩行中に死亡事故

月刊「ザ・セーフティジャパン」2002年分縮刷版発行!



ご希望の方
にお分け
します

日頃からSJをご愛読いただきありがとうございます。本紙では交通安全教育にかかわる様々な話題を取り上げ、充実した紙面づくりに努めております。

この本紙2002年分の縮刷版をご希望の方にお分けいたします。切手2000円分を同封の上、下記までお申し込みください。4月30日まで受け付けております。

〒107-0062 東京都港区南青山3-4-7

第7SYビル6階

(株 アストクレイティブ「SJ」縮刷版係

にあつ人は年間1500人を数えている。自宅近辺で事故にあうケースが多いのだが、事故原因では交差点やその周辺などにおける信号無視・横断違反および安全不確認なども数多い。加齢によって視力や運動能力の低下などの身体機能の衰えがあるため、十分な注意が必要であるのはもちろん、交通ルールを遵守することはいつまでもない。

また、ドライバーに自分の存在に気づいてもらう「見られる」工夫として、明るい色の服装にしたり反射材の使用などで視認性を高めるようにしてほしい。観察中、白いマスクを利用している人を数人見かけたが、とても目立っていた。

また、ドライバーも高齢者の行動特性を理解して、交差点や横断歩道などで十分な気配り・目配りを心がけてほしい。